

暴風雪前後の営農技術対策

平成26年12月16日
北海道農政部

暴風雪時の注意項目

- 1 最新の情報に注意して、天候急変に備えた早めの準備を行う。
- 2 暴風雪の影響を受けやすい地区の避難困難者は早めの行動をとる。
- 3 飼料、燃料、自家発電装置の点検は風雨が強くなる前に終わらせる。
- 4 風雪が強い場合はむやみに施設等に近づかず、安全の確保を心がける。

上空に強い寒気が入り込んでいる状態で、2つの低気圧が北海道付近で一つになり、台風並みに発達し、太平洋から暖かい湿った空気が入り込んで大雪、暴風雪となり、被害が発生する可能性があります。

暴風雪警報は、暴風雪の数時間から2時間程度前に発表されるので、随時発表される気象情報に十分注意し、次の事項の徹底に努めてください。

札幌管区气象台ホームページ <http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>

第1 育苗ハウス・栽培ハウス

1 強風・降雪への対応

- (1) ビニールやハウスバンド等施設各部の損傷・ゆるみなどを点検し、必要に応じて補修する。
- (2) ハウス横に雪があると屋根の雪が落ちず、施設の側部がゆがむので除雪しておく。
- (3) ハウスの気密性を高め、加温施設がある場合は可能な範囲で室温を高め、天張面を温め落雪を促す。

ただし、ハウス内に作物がある場合は、温度が上がりすぎないように注意する。

- (4) 停電に備えて自家発電機や簡易暖房機、暖房用ろうそく等を確保して、緊急時に保温暖房できる体制づくりに努める。

2 その後の処置

- (1) 降雪後は、ビニールやハウスバンド等施設各部の損傷・ゆるみなどを点検し、必要に応じて速やかに補修する。
- (2) 吹き溜まりやハウス片側に落積雪があると、負荷がアンバランスとなりハウスがゆがむことがあるので速やかに除雪する。
- (3) 湿った雪は、重みでビニールがたるみ、滑り落ちにくくなるので、速やかに雪降ろしを行う。
- (4) 融雪水がハウス内に入り込まないように、ハウス周辺の排水経路を確保し、排水に努める。

第2 酪農

- 1 降雪による交通障害や停電等で、搾乳や飼養管理に支障が出た場合の問い合わせ先や対応方法を確認しておく。
- 2 自家発電機の燃料を確認し、試運転を行う。
- 3 降雪中の除雪作業は、周囲の安全に十分配慮して行う。自宅まで戻れない場合の避難先となるD型ハウス等の場所を確認する。避難したときは、直ちに外部と連絡をとり、所在を明らかにする。
- 4 停電により搾乳及びバルククーラーの冷却ができない等の場合は、次を参考に対策に努める。
 - (1) 前回搾乳から16時間以内は、搾乳を中止しても乳量や乳質に特に問題は生じない。
 - (2) 発電装置が手配できる場合は、それらを利用して搾乳・冷却をおこなう。
 - (3) 発電装置は、必要電力に対して十分に余裕を持った機材を用いる。搾乳を最優先事項とし、発電能力に合わせて通電する優先順位を決める。
 - (4) 発電機が水平に安定した状態で設置されていること、発電機の周囲に可燃物がないことを確認してから、発電を開始する。発電機や電子機器の基盤に急激な負荷を与えないよう、発電機の回転数が安定していることを確認しながら、優先順位に従い、一つずつ機械のスイッチを入れる。
 - (5) 停電で使用不能となる設備(水槽揚水ポンプ、サイロのアンローダー、電気牧柵、自動給餌機、電気温水器、照明器具、自動哺乳装置)を確認し、稼働中に停電した機器や通電後、再稼働の確認が必要な機器については、ブレーカーを落とし、再稼働の優先順位を確認しやすいマークをつける。
 - (6) 停電で搾乳が不可能な場合、牛舎への出入りは必要最小限にし、牛に搾乳刺激を与えない。また、給水制限すると同時に濃厚飼料の給与は控える。
 - (7) 手搾りが可能な酪農家は、泌乳前期牛の搾乳を優先する。
- 5 停電解消後は、次を参考に対策に努める。
 - (1) 通電後は優先順位に従ってブレーカーを戻し、ミルカーなど電気を動力源とする機械が正常に作動するか速やかに点検する。
 - (2) 通電後、直ちに搾乳する。ただし、前搾りを行い凝固物(通称ブツ)の有無を確認し、罹患している場合は治療する。
 - (3) 通電忘れがないか、再度確認する。
 - (4) 牛の体調を確認して、異常牛はすみやかに獣医師の診察を受ける。
- 6 停電中にバルククーラーで冷却中であった生乳は、速やかに集乳できるよう体制を整える。また、出荷する際には、細菌数の検査を実施する。